

プログラム

教育講演

教育講演

2022年12月9日 13:30～14:30

座長：山田 久陽（株式会社LSIメディエンス）

『医薬品毒性機序研究の貢献と今後の展望』

演者：横井 毅（名古屋大学大学院医学系研究科）

シンポジウム

シンポジウム 1

2022年 12月 8日

10:00 ~ 12:00

『細胞死のシグナル伝達』

座長：伊藤 晃成（千葉大学大学院薬学研究院 生物薬剤学研究室）

加藤 隆児（大阪医科薬科大学薬学部 循環病態治療学研究室）

S1-1： 毒性病理学における細胞死の概念と診断の実際

○今岡 尚子（第一三共株式会社 安全性研究所）

S1-2： 新規ネクローシス様細胞死と疾患

○中野 裕康（東邦大学医学部生化学講座）

S1-3： 重症薬疹における細胞死

○阿部 理一郎（新潟大学医歯学総合研究科皮膚科）

S1-4： 抗がん剤ゲフィチニブによる間質性肺炎の発症機序の解明および細胞死との関係

○松沢 厚（東北大学 大学院薬学研究科 衛生化学分野）

シンポジウム 2

2022年 12月 8日

14:10 ~ 16:10

『MPSに免疫細胞の共培養は必要か？』

座長：奈良岡 準（アステラス製薬株式会社 非臨床バイオメディカルサイエンス）

井口 拓馬（第一三共株式会社 安全性研究所）

S2-1： 特異体質性薬物性肝障害発症機序解明における免疫細胞の必要性

○加藤 隆児（大阪医科薬科大学薬学部 循環病態治療学研究室）

S2-2： 免疫細胞-肝臓連結MPS開発の現状と課題及びDILI発症における分子機構解明への取り組み

○柿木 基治，○伴 涼太郎（エーザイ株式会社 グローバル薬物動態研究部）

S2-3： 免疫介在性肝毒性評価のためのin vitro model検討と今後の展望

木村 真弥，小森 久和，○篠澤 忠紘（武田薬品工業株式会社 薬剤安全性研究所）

S2-4： 血管内皮細胞と免疫細胞の共培養系を用いたバイオ医薬品の免疫複合体の毒性リスク評価

○伊藤 俊輔（中外製薬株式会社 トランスレーショナルリサーチ本部）

『AOPの理解』

座長：小島 肇（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター）
大石 巧（株式会社ボゾリサーチセンター）

- S3-1： OECDにおけるAOP開発とその理解
○田邊 思帆里（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部）
- S3-2： 鼻腔発がんの機序について—AOP的考え方
○小川 久美子¹，長野 嘉介²，小島 肇³，福島 昭治⁴，西川 秋佳^{1,5}
（¹国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター病理部、
²長野毒性病理コンサルティング、
³国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター安全性予測評価部、
⁴一般社団法人化学物質安全性評価研究推進機構、⁵名古屋徳洲会総合病院 病理診断科）
- S3-3： ICH S1B(R1)がん原性試験ガイドライン改定と発がんに関するAOP利用の可能性
○久田 茂（元）日本製薬工業協会医薬品評価委員会基礎研究部会）
- S3-4： OECD AOPプログラムに基づいた免疫毒性AOP開発の進展
○大石 巧^{1,2}（¹日本免疫毒性学会 試験法委員会 AOP検討小委員会、
²株式会社ボゾリサーチセンター 御殿場研究所）

『off-target毒性標的探索』

座長：森 和彦（第一三共RDノバーレ株式会社）
米森 和子（武田薬品工業株式会社 薬剤安全性研究所）

- S4-1： トランスクリプトームデータを用いた毒性発現メカニズムの推定
○夏目 やよい^{1,2}
（¹医薬基盤・健康・栄養研究所 AI健康・医薬研究センター、²徳島大学 先端酵素学研究所）
- S4-2： ケミカルプロテオミクスによる毒性メカニズム解析
○小倉 裕次¹，林 真由美¹，笠原 亜希子¹，勝野 紘士¹，内藤 明日香¹，舟橋 賢記¹，清水 弘樹²，
森 和彦¹（¹第一三共RDノバーレ トランスレーショナル研究部、
²第一三共RDノバーレ 合成化学研究部）
- S4-3： データ統合と薬理作用予測による毒性、副作用へのアプローチ
○緑川 淳¹，E. Gregori-Puigjané²，R. Garcia-Serna²，M. C. Carrascosa²，M. Cases²，
N. Remez²，J. Olivés²，J. Quintana²，J. Mestres²（¹株式会社ワールドフュージョン、
²Chemotargets SL.）
- S4-4： AlphaFold2を用いた高精度タンパク質立体構造予測の毒性評価への応用可能性
～環境汚染物質を例として～
○武田 一貴^{1,2,3}（¹北里大学 獣医学部 毒性学研究室、²東京工業大学 情報理工学院、
³北海道大学 大学院獣医学研究院）

企業シンポジウム

企業シンポジウム

2022年12月8日 13:30～14:00

座長：福井 英夫（アクセリードDDP株式会社）

Metabolon Inc.

『毒性学および薬理学におけるメタボロミクスの応用』

- 紙中 庄司, Heino Heyman
(Metabolon Inc.)
-

ポスター発表プログラム

*若手優秀発表賞応募演題

- P-1 : 医薬品開発早期における肝外組織の有害作用評価に利用可能な指標の探索
岩田 実咲¹、皆藤 駿之介¹、保坂 卓臣¹、志津 怜太¹、菅野 裕一郎¹、竹下 潤一^{1,2}、
○吉成 浩一¹
(¹静岡県立大学薬学部衛生分子毒性学分野、²産業技術総合研究所安全性科学研究部門)
- P-2* : 薬剤性肝障害の予測・評価におけるシトクロムP450阻害試験データの有用性
○皆藤 駿之介¹、岩田 実咲¹、保坂 卓臣¹、志津 怜太¹、菅野 裕一郎¹、竹下 潤一^{1,2}、
吉成 浩一¹
(¹静岡県立大学薬学部衛生分子毒性学分野、²産業技術総合研究所安全性科学研究部門)
- P-3* : 化学構造情報とin vitro情報を使用した特異体質性薬物性肝障害の機械学習を用いた
予測手法の開発
○片山 早紀¹、安部 賀央里¹、頭金 正博¹
(¹名古屋市立大学大学院薬学研究科 レギュラトリーサイエンス分野)
- P-4* : Determination of key residues in MRGPRX2 to enhance pseudo-allergic reactions
induced by fluoroquinolones
○Eri Hamamura-Yasuno¹, Junya Matsushita¹, Seiji Sato², Takashi Shimada³,
Yoshimi Tsuchiya¹, Kazunori Fujimoto¹, Kazuhiko Mori⁴
(¹Medicinal Safety Research Laboratories, Daiichi Sankyo Co., Ltd.
²External Affairs Department, Daiichi Sankyo Co., Ltd.
³Organic & Biomolecular Chemistry Department, Daiichi Sankyo RD Novare Co., Ltd.
⁴Translational Research Department, Daiichi Sankyo RD Novare Co., Ltd.)
- P-5* : HLA-A*31:01ノックインマウスを用いたカルバマゼピン過敏症動物モデルの作製
○市川 眞帆¹、原田 直幹²、風岡 顯良¹、青木 重樹¹、伊藤 晃成¹
(¹千葉大学大学院 薬学研究院、²大鵬薬品株式会社)

- P-6* : キメラ型HLA遺伝子導入マウスを用いた、各種臓器における特異体質性のアバカビル誘発毒性の評価
 ○風岡 顯良¹、熊谷 和善²、松下 隼也²、間 哲生²、桑原 佐季¹、青木 重樹¹、伊藤 晃成¹
 (¹千葉大学大学院薬学研究院、²第一三共株式会社 安全性研究所)
- P-7* : アセトアミノフェンを用いたヒト肝細胞中プロテオーム解析によるインフラマソームを介した自然免疫応答に起因するDAMPsの特定
 ○伴 涼太郎、柿木 基治、井上 和子
 (エーザイ株式会社 グローバル薬物動態研究部)
- P-8* : ヒト/サルcrypt由来の未分化・分化腸スフェロイドを用いたEGFRチロシンキナーゼ阻害薬による下痢発症リスクの評価
 ○橋本 芳樹¹、前田 和哉^{1,2}、下村 治³、宮崎 貴寛³、橋本 真治³、森山 亜紀子⁴、小田 竜也³、楠原 洋之¹
 (¹東京大学大学院薬学系研究科 分子薬物動態学教室、²北里大学薬学部 薬剤学教室、³筑波大学 医学医療系 消化器外科、⁴株式会社新日本科学)
- P-9* : オクラトキシンAのラット90日間反復投与例におけるDNAメチル化制御破綻に着目した腎発がん機序の探索
 ○小澤 俊介^{1,2}、岡野 拓^{1,2}、高嶋 和巳^{1,2}、高橋 康徳^{1,2}、尾城 椋太^{1,2}、唐 倩^{1,2}、鄒 昕羽^{1,2}、吉田 敏則^{1,2}、渋谷 淳^{1,2}
 (¹東京農工大学 獣医病理学研究室、²東京農工大学大学院 共同獣医学専攻)
- P-10* : Search for DNA Methylation-altered Genes in the Hippocampal Neurogenic Niche Linking to the Enhanced Neural Functions by Continuous Exposure to Curcumin from the Embryonic Age in Rats
 ○Qian Tang^{1,2}, Junta Nakahara¹, Kazumi Takashima^{1,2}, Yasunori Takahashi^{1,2}, Hiromu Okano^{1,2}, Ryota Ojira^{1,2}, Shunsuke Ozawa^{1,2}, Xinyu Zou^{1,2}, Tomohiro Nakao³, Mihoko Koyanagi³, Toshinori Yoshida^{1,2}, Makoto Shibutani^{1,2}
 (¹Laboratory of Veterinary Pathology, Tokyo University of Agriculture and Technology
²Cooperative Division of Veterinary Sciences, Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology
³San-Ei Gen F.F.I., Inc.)
- P-11 : 薬剤性腎障害の慢性化病変におけるCD44陽性尿細管の病態生理学的意義
 ○松下 幸平¹、豊田 武士¹、赤根 弘敏¹、森川 朋美¹、小川 久美子¹
 (¹国立医薬品食品衛生研究所 病理部)

P-12* : グリホサート原体及びグリホサート系除草剤の発達期曝露によるラットの脳発達への影響
○尾城 椋太^{1,2}、岡野 拡^{1,2}、高嶋 和巳^{1,2}、高橋 康德^{1,2}、唐 倩^{1,2}、小澤 俊介^{1,2}、
鄒 昕羽^{1,2}、渋谷 淳^{1,2}
(¹東京農工大学 獣医病理学研究室、²東京農工大学大学院 共同獣医学専攻)

P-13* : アクリルアミドのラット嗅球-脳室下帯神経新生への影響
○小川 文一朗¹、中西 豊¹、若松 正樹¹、高橋 康德^{2,3}、渋谷 淳^{2,3}
(¹大正製薬(株) 安全性研究室、²東京農工大学 獣医病理学研究室、
³東京農工大学大学院 共同獣医学専攻)